

緊急企画：デング熱媒介蚊についての現状と今後の対策について

企画趣旨

座長 元木 貢（アペックス産業）

8月27日、埼玉県内に住む10代後半の女性が東京都の代々木公園で蚊に刺され、デング熱を発症したと公表された。1945年以来69年ぶりに国内感染が明らかになった。これを始めとして、平成26年9月30日現在で感染者は151名までに広がった。

（公社）日本ペストコントロール協会は、1999年の伝染病予防法の廃止を契機に「感染症予防衛生隊」を立ち上げ、感染症対策における行政の受け皿として各都道府県協会に設置を図っている。これまでに「感染症対応マニュアル」（2001年、執筆者代表：新原昭）、「PCOのためのウエストナイル熱媒介蚊対策マニュアル」（2003、執筆者代表：緒方一喜）、「PCOのための高病原性鳥インフルエンザ対策マニュアル」（2007年、執筆者代表：安居院宣昭）を出版して、感染症の発生に備えてきた。

（公社）東京都ペストコントロール協会では、感染症予防衛生隊は21社により組織され、2010年に東京都との間で公園等16カ所の感染症媒介蚊サーベイランスの協定を締結し、CDCトラップによる蚊の捕集及び、蚊が媒介する感染症の発生に備えた蚊の駆除業務等に関する協定を結んでいる。

今回のデング熱発生では、8月28日に東京都から要請があり、同日17:00より急遽代々木公園の蚊の駆除を動力噴霧機によりエトフェンプロックス100倍希釈液を散布、9月5日には生態系への配慮からエトフェンプロックス50倍希釈液をハンドスプレーにて散布した。その後、代々木公園では3回、青山公園、青山公園、新宿御苑、上野公園で散布を行った。その他に新宿中央公園、明治神宮、その他、区や大使館、ホテルなどでは個別にそれぞれ出入りのPCOに委託している。新宿御苑、代々木公園ではCDCトラップによる蚊の捕集にも協力している。

本シンポジウムで、ディスカッションを通じて、研究者の役割と防除業者の役割のそれぞれヒントが得られれば、今後の対応に大いに参考になると思われる。活発な議論を期待したい。